

成人病集団検診（第1報）

金沢大学結核研究所診療部（主任：卜部美代志教授）

卜部 美代志 村 沢 健 介
 高 野 徹 雄 出 口 国 夫
 村 上 尚 正 高 田 英 之
 上 原 時 雄

岐 阜 県 神 岡 町 病 院

本 多 幸 三 郎

三井金属鉱業所神岡鉱山病院

富 田 国 夫

（受付：昭和37年8月27日）

は し が き

近年成人病に関する認識が深められてきた。成人病の代表的なものとして悪性しゅよう循環器疾患とをあげることが出来る。これら疾患群に対する最近の治療面の進歩には目ざましいものはあるが、反面、これら疾患による死亡率は年々増加の傾向を示している。無自覚性の悪性しゅよう、あるいは循環器疾患が放置されて、医療施設を訪れる患者の治療時期遷延によるものと考えられる。結核については抗結核剤の出現によることはもちろんであるが、先人の「患者のくるのを待たず、患者を探しだすべきである」との考えのもとに行われた結核集団検診により治療効果があげられたことは記憶に新しいところである⁶⁾。

最近、肺ガン、消化器疾患、あるいは高血圧症に対しても同様な見地のもとに集団検診が行われ始めている。しかしこれら疾患についての集団検診の当否については賛否両論がある。

胃ガンの集団検診を行つた有賀は集団検診とは積極的に一般民衆のなかから「アミ」を用いて魚をすくいあげるごとく胃ガンを摘出することであり、またこれがけいもう運動となり真の早期受診を促すことになることを推奨している^{3), 6)}。他方従来の胃集団検診法によって胃ガン発見率を検討した佐分利は、集団検診は労多くして効果は少なく、かつこのような方法で早期発見は困難であり、たとえ相当に進んだガンをみいだしても治療上大きな意味がないので、彼はむしろ中年以上の不定の胃腸障害のある人、貧血のある人、胃かいようの既往歴のある人の定期検診をすすめる方針をとっている⁷⁾。

治療法の原則はまず疾病の予防であり、早期発見、早期治療であることは論を俟たない。そこでわれわれは上述せる両者の意見を参考として、成人病の早期発見、早期治療による疾病の進行を防止し、更に経過観察をはかるなどを目

ざして集団検診を実施し、合わせて民衆の成人病に関するけいもう運動となることを期待した。また末だ確立されていない成人病の集団検診法について有効で合理的な方法を検討することを目的とした。

私どもはすでに富山県新湊市の一部、石川県能登の一部において集団検診を行い、予期以上の成績をおさめ得たので、引き続き岐阜県神岡地区における集団検診を計画した。

神岡町は岐阜県の最北端に位置し、神岡鉦山を中心にして発達した人口27,024名(昭和35年度調べ)の町である。三井金属鉦業所神岡鉦山病院と神岡町病院との二つの総合病院がある。

この町の集団に対して行うべき検診の種類を選ぶために、この町における最近6カ年の人口動態と死亡率を参考にした。(表1)

人口は6カ年の間に著明な変動を示さず人口1万に対する死亡率も全国統計よりやや低い値を示し、岐阜県内でも死亡率の低い土地といえる。

これらの死亡率(人口1万に対する)を死因別にして年次的に観察すると、悪性新生物については(その大部分は胃ガンで占められているが)最近6カ年間増減はあるが、岐阜県あるいは全国統計に比べ全般的に率低く、昭和35年度のごときは全国統計の半ばに過ぎない。つぎに神岡町における消化器疾患については岐阜県全体の統計に比べると低値であるが、全国統計よりもはるかに高率である¹⁾。わが国における統計によると表2に示すごとく胃及び十二指腸かしようによる死亡率は人口10万に対し11.8であり、これは悪性新生物の100.1に比べれば著明に少ない¹⁾。しかし諸外国における統計よりも著しく高い¹⁾。従ってわれわれは、胃かしようあるいは慢性胃炎よりの悪性変化は今日確実とされていることより、胃ガンはもちろん、胃及

び十二指腸かしよう並びに慢性胃炎の摘発、経過観察、治療が重要であることを認めるのである。

次に循環器疾患による死亡率は高い¹⁾。神経系疾患による死亡率中には中枢神経系の血管損傷がかなり多く含まれている。高血圧症による死亡率は外国統計に比べき程高くないが中枢神経系の血管損傷による死亡率は西ドイツ、イギリスにつぎ、アメリカのそれより高い。従って私どもは中枢神経系血管損傷を含めて、高血圧に対する集団検診をも企画した。集団検診においては、有賀が述べているように^{3), 6)}対象とする疾病により、その検査方法は異なるが、高度の成果を期待するためには、精密な機械を用いることはいうまでもないが、それらの機械を用いて、いかに精度の高い検査を行っても時間的、経済的な制約を無視したのでは集団検診の実施は困難である。われわれは今回胃集団検診に種々工夫を加えた胸部用6×6版間接撮影装置を用い、高血圧検診に血圧測定、心レ線撮影を行い、更に問診、検尿、検便、打聴診、触診を加えた。前回の集団検診の経験により医師2名、レ線技師1名、補助員4~5名で、1日検査可能人員を100名として計画した。

胃の間接撮影の判定の結果、異常所見のある例には神岡町病院において精密検査を行った。有所見摘発例を神岡町にある医療施設に必要な検査、経過観察並びに治療を一括依頼した。

検査対象とする年令を40才以上の男女としたのは図1及び2に示すごとく、昭和34年度の全国死亡統計¹⁾において、悪性新生物、特に胃ガン、または中枢神経系の血管損傷が男女共に40才より急激に増加すること、また胃、十二指腸かしようも40才より徐々に増加することに基づいたものである。

実 施 方 法

われわれは表3のような編成により表4のような実施要領で集団検診を行った。

1. 集団検診の実施について

(1) 受付と調査表作製…調査表として対ガン協会作

製の表を一部修正して利用した。

- (2) 尿検査…酸性度: リトマス試験紙, たん白: sulfosalicyl 酸法, 糖: Nylander 氏法, Urobilinogen: Ehrlich's aldehyd 反応¹⁰⁾
- (3) 血圧測定…血圧計は Riva Rocci 型水銀血圧計を使用し, 縮期圧とち期圧とを横が位にし左上腕において, 聴診法により測定した。
- (4) 胃, 胸部間接撮影…間接撮影装置並びに条件はつぎの通りである。発生装置は島津製作製(八瀬号)間接撮影装置で最大電圧 85KVP, 最大電流は 100mA の性能を持つ。蛍光板は極光シネ用感度 260%, 鮮鋭度 70% のものを用いた。この蛍光板を利用したことにより上記発生装置を用いての腹部撮影が可能になった。管球より蛍光板までの距離は 85cm である。撮影条件としては胃の場合: 電圧 75KVP. 一定, 爆射時間 0.8~1.3 秒, 電流 30 mA, 一定とし, 胸部の場合: 爆射時間 0.1~0.3 秒電圧及び電流は胃の場合と同様な条件で行った。Film としてフジ 6×6 レ線用 Film を用い, Camera として Canon 胸部間接撮影用 Lens 100 mm f 1.5 を用い, 造影剤としてミカコク(バリウム商会製)を採用した。これは超微粉(0.5~1 μ)の局方 BaSO₄ を 60% 含んだゾル状の芳香味を加えた製品で, 従来の造影剤に比べ, 胃のすうへき像の造影能力が良好であり, 取り扱いが簡単である。難点をいえば高価なことである。撮影方向は立位, 正面, 背腹とし, ブレンデを使用しなかった。所要時間は 1 人平均 4~5 分を予定した。1 人に Film 4 枚を予定し, 撮影順序としては第 1 回撮影はミカコクを 1 口飲みました後に行われ, 胃のすうへき像観察用とする。第 2 回撮影

は残り全量を飲みました直後行われ, 胃の充えい像, 食道下部の通過状態並びに胃の膨満状態の観察にあてる。第 3 回撮影は胸部撮影とする。第 4 回撮影は第 2 回撮影後 10 分に胃部を撮影し, 幽門部, 十二指腸球部, 胃角の変形, 排出状況の観察にあてた。ミカコクは 1 人 200ml を予定した。

- (5) 問診, 胸部打聴診, 腹部触診を行い個人面接をかねた。
 - (6) 検便…虫卵検査は設備及び所要時間の関係上直接法を採用し, 潜血反応検査にはシノテスト 4 号を用いた。
 - (7) Film の現像…レンドールタンク現像 5 分間に行なった。
 - (8) 調査表と Film 整理…十分に時間をあて, その日のうちに整理を完了するようつとめた。
 - (9) 間接撮影 Film の読影…医師 2 名が読影し, 疑例に対しては十分な検討を試みた。
 - (10) 異常例を摘出し, 精密検査を要する旨の連絡をした。
2. 胃精密検診の実施について。
- 胃間接撮影所見及び諸検査により精密検診が必要とされた異常所見例に対して, 神岡町病院において精密検診を行った。
- 精密検診の対象人員は 1 日 10 名で, 神岡町における実施期間は 10 日間, 100 名が予定された。
3. 治療並びに経過観察の実施について。
- 胃精密検診, 高血圧検診及びその他の検診によって有所見例と判定された人達を要治療群, 要経過観察群に区別して神岡町にある医療施設において処理された。

検 診 成 績

I 胃集団検診成績

神岡町における検診人員は表 5 のごとく 1,268 例で, うち 40 才以上のもの 1,024 例は同年令町人口 7,476 例に対し 13.7% にあたる。男性 3,598 例中 409 例 (11.3%) 女性 3,878 例中 615 例 (15.6%) の検診率で女性は男性より受診率が大きい。年齢別にみると 40~49 才のもの 460 例が最も多く高年齢層になるに従い受診率が低下する。

胃間接撮影は食事摂取後の 5 例を除き 1,263 例に行われた。

胃間接撮影におけるしゅようあるいはかいようの主要所見は陰影欠損, ニツシエ, 異常変形あるいは通過障害等である。私どもは今回は, 特に異常変形及び通過障害に重点をおいて観察した。間接撮影によって異常所見がみとめられ, その他諸検査事項を参考として要精密検診例として摘出されたものは 1,265 例中 65 例 (4.9

%)である。その中40才以上のものは1,024例中53例(5.1%)である。男性409例中24例(5.8%), 女性615例中29例(4.7%)である。男性24例中1例は胃切除後の状態のものであった。

胃切除後の状態1例を除いた40才以上52例の検診例について精密検診の結果を述べよう。

(表6)要精密検診52例における潜血反応検査の結果は陽性24例, 陰性23例, 不明5例で有意の差はなく, 胃症状の訴えを持つものは52例中48例80%に達した。精密検査の結果は表7のごとく, 胃ガン2例, 同疑2例, かいよう6例, 同疑9例, 幽門きょうさく2例, 慢性胃炎24例, 胃下垂3例, アトニー2例, 幽門炎1例, のう胃1例であった。52例中, 胃ガン, かいよう, 幽門きょうさくの発見率はそれぞれ7.7%, 27.0%, 3.8%である。間接撮影所見において欠損像を示した2例, 胃壁硬化像を示した1例, 計3例はいずれも胃ガンであった。胃ガンの他の1例は間接撮影所見において通過障害を示し異常変形を示さなかった。間接撮影所見において通過障害, 異常変形像を示した13例中7例はかいようあるいは同疑で, 残り6例は慢性胃炎であった。また間接撮影所見において通過障害はなく, 異常変形像のみを示した21例中8例がかいようあるいは同疑で残り9例は慢性胃炎, 4例は胃下垂(2例), きょうさく, アトニーであった。通過障害のみを示した8例にはかいようはみられなかった。結局, 異常変形像を示した34例において14例(42%)にかいようがみられ, 更にこれに通過障害が加わると13例中7例(52%)にかいようが発見されたことになる。今回の検診において, われわれが間接撮影所見の読影にあたって, 異常変形像及び通過障害に重点をおいて行ったことはまず妥当であったようである。ただし, 異常変形像を示した33例中15例(45%)に, また通過障害を示した21例中9例(41%)に, 慢性胃炎がみられたが, 胃の三大疾患の一つ慢性胃炎もその高度のものは摘発されて, 要注意下におかるべきである。(表8(1)(2))

つぎに潜血反応所見を参考にすると, かいよう例6例中4例(66%), 同疑9例中4例(44%)に潜血反応が陽性であり, 慢性胃炎例17例中8例(47%)に潜血反応陽性であった。すなわち, 潜血反応陽性例16例中8例にかいようがみられ, 8例に慢性胃炎がみられたわけである。つぎに胃の訴えを参考にすると, 胃の訴えあるもの24例中15例(51%)にかいようがみられている。これに間接撮影所見を加え, 通過障害, 異常変形像と胃の訴えあるものとの3者を備えるもの8例中5例(62%)にかいようがあり, 異常変形像を示し, 胃の訴えを持つもの15例中6例(40%)にかいようがみられている。要約すると間接撮影所見における。通過障害と異常変形像とは撮影法を工夫すると更に正確にそのよってくる病態を定めることができ, この際潜血反応所見, 胃症状の訴えなどは鑑別診断にある程度の役割を演ずるものと考えられる。

(表9(1)(2))間接撮影所見において胃壁のきょうさく変化の高度なもの, 爆状胃等はいずれも慢性胃炎であった。

従来の集団検診の成績をみると表10のごとく胃ガン発見率の最高は Ringler (1948) の2.6%で最低は Dailey (1954), 若林 (1957), 湯川 (1957) 等の0の場合もあるが, 大体0.5%前後である⁶⁾。母集団のえらび方により発見率は異なるはずである。われわれは希望者について検診を行ったものであり, 必然的に胃症状の訴えのあるものが多くなっている。その結果として胃ガン, 同疑は4例(0.4%)の発見率を上げている。それらの例は50才女, 59才男, 74才男, 80才女で, いずれも50才以上であった。有賀の検診報告において摘発胃ガン例54例中45例が50才以上であった結果とよく一致している。

かいよう, 同疑の発見例は15例で発見率15%となる。性別をみると, 男性9例(2.2%), 女性6例(0.9%)で男性に多い。年令別にみると15例中12例は54才以下であった。有賀の検診報告において摘発かいよう例408例中350例が59

才以下にみられ, 30才より59才までの中年層に多く, 性別では男性においては女性の2~3倍に多い結果と一致する. すなわちガンは高年層に多く, かいようは比較的中年層で男性に多いといえよう.

レ線所見よっての慢性胃炎の診断は, その信頼度が低い⁴⁾. それで, 最近では胃カメラ, 内視鏡, 生検あるいは結局切除胃についての肉眼的あるいは組織学的所見による方法がとられる場合も多い. まして間接撮影所見のみにより, 慢性胃炎の診断を下すことははなはだ困難といわねばならない. 今回われわれは胃のすうへき像に重点をおいて観察し, その異状所見が著明な例に対してのみ諸検査事項を加味して, 慢性胃炎の診断をなした. 検診例997例中慢性胃炎は177例(17.7%)で性別をみると, 男性85例(21.4%), 女性92例(15.3%)で男性に多い. 年令的にみると大多数例(177例中158例)が59才以下にみられ, 40~45才が最高(51例)を示していた.

間接撮影所見における胃下垂の判定は管球焦点の位置, あるいは被撮影体の体位により非常に困難であるが, われわれは管球の焦点をさい部において撮影し, 読影に際しては, 胃陰影が骨盤腔にまで著しく下垂せるものを下垂胃と判定した. 胃下垂は997例中205例(20.5%)で検診例中最も多い疾患であった. 性別にみると, 男性54例(13.3%), 女性151例(25.2%)で女性に多くみられた. 年令別にみると, 男性では64才以下に多く, 女性では高年令層になるにしたがい多くなる傾向を示していた.(表11)

II 高血圧集団検診成績

高血圧検診においては, 血圧測定, 心間接撮影, 心電図, 尿検査, さらに血清コレステロール測定, 眼底検査, じん機能検査などを必要とするが^{2), 5), 6)}, われわれは胃集団検診と合併して出来る範囲において, 問診, 尿検査, 血圧測定, 胸部間接撮影及び心音聴取を行い, 異常所見例に対しては神岡鉦山病院及び神岡町病院に必要検査事項を依頼し, 経過観察並びに治療

を神岡町にある医療施設にゆだねた.

従来, 血圧測定に影響する条件としては安静, 体位, 日差, 気温, 季節などがあげられている^{2), 5)}. しかし特に測定結果を左右する因子はない. われわれの測定した時期は10月の気候のよい時期であり, 測定時間が午前中で, 検査場も大した刺激的でない等で, 割合に安定せる時間を選ぶことが出来た. 従って一回測定を原則とし, 特に異状例に対しては, 時間をあらため再測定を行って結果を確認する方法を選んだ.

検査例は1,265例で, 30才以上は1,209例, 男性471例, 女性738例であった. 高血圧症の発生は生活条件あるいは年令層に著しく影響されると考えられるので, まず年令別に血圧変化の分布を求めて観察した. 表12には縮期圧を表13にはち期圧の変動をまとめた.

縮期圧については年令30~34才において, 男女共に110~190mmHgを示すものが最も多く, 年令の進むに従って Peak は移動し, 45~49才においては120~129mmHgに, 50~54才においては130~139mmHgに, 55~59才においては140~149mmHgに, 最多数例の Peak がある. また200mmHg以上の高血圧例は高年層に多くみられた. ち期圧については縮期圧におけるほぼ同様の傾向がみられた. これらの血圧ひん度分布を曲線で示すと図3のごとくなる. これらの図において年令の増加に比例してその年令層における例数の Peak が移動する様子がよくうかがえる.

正常血圧の範囲の決定はかなり困難である. Robinson, 金井等は生命保険の材料より正常血圧は年令に無関係で不変であると述べているが, Master, 平尾, 額田, 山本等は年令に比例して上昇すると述べている^{5), 6)}. われわれは Master の規準に従い, 年令別に, 血圧測定値の低血圧上限以下を低血圧, 低血圧上限より正常域までを亜低血圧, 正常域を正常, 正常域より高血圧下限までを亜高血圧, 高血圧下限以上を高血圧の5群に分けて観察した結果を表14,

15に示した。縮期圧の正常例は中年令層にあっては71~82%の間にあるが、60~64才の男性になると53.1%と減少し、65~69才53.8%で年齢の増加と共に減少を示した。女性においては各年齢層を通じて有意の差はなかった。縮期圧の高血圧例は、男性においては30才より59才の間で、4.3%~10.8%と徐々に増加し、60~64才においては28.7%と急激に増加し、65~69才においては20%と再びやや減少し、70才以上においては15%と更に減少を示す。しかし59才までの2~3倍に達している。女性においては55~59才で14.8%と急に増加し60~65才で5%に減少するが、65才以上で14.2%、70才以上で16%と著明にふえている。

すなわち、神岡町の検査例においてはMasterの規準に従えば、男性の60才以上、女性の65才以上に高血圧例の増加がみられる。高血圧症の前期とも考えられる縮期圧の亜高血圧例をみると、男性では50~54才において、15.8%と49才以下(1.1%)の場合の15倍も急増している。55~59才においては、4.7%と減少を示したが60~65才において8.8%、65~69才において、15.3%、70才以上において30.6%を示し、年齢の進むに従って例数の増加がみられた。女性においては、35才の若年層においてすでに9.7%に達し、45~49才10.6%、50~54才12.1%、55~59才8.2%、60~64才15.0%、65~69才5.6%、70才以上8.0%である。すなわち神岡町住人の場合潜在性高血圧とみなされる亜高血圧は男性では50才より始まり60才で高血圧症状に移行する。女性では亜高血圧がすでに35才より始まり55才に至って高血圧症状が現われるようである。高血圧症状の出現率は男性では女性より高い。低血圧例数は30~34才及び50~54才の女性においてやや多いが(5.4%、6.1%)その他の群においては有意の差はない。

次にち期圧については、その正常例は男性では30~34才において60.7%に達し、年齢の進むに従って正常値を示す例数が増加し、45~49才において79.8%を数え、50~54才において

69.6%、55~59才において73.5%、60~64才において60%、65~69才において61.4%、70才以上において69%を示している。

女性では、30~34才において83.7%の高い値を示し、35~39才、40~44才においてはそれぞれ64.0%、62.7%、45~49才においては81.3%、50~54才において70.9%、55~59才において66.8%、60~69才において73.3%、70才以上において52%を示す。ち期圧の高血圧例は男性では45~49才において11.0%を示して著明に増加し、それ以上の年齢になるとわずかながら増加を示した。女性では40~45才において9.0%、55~59才において13.5%を示す。

すなわちち期圧の高血圧は男性では40~45才よりみられ、女性では40~45才に一時的にみられその後55~59才にいたって本格的の高血圧症状を示すようである。また、ち期圧の潜在性高血圧は男性では60才より始まり、女性では若年層よりすでにみられる。

従来高血圧とじん機能との関係が注目されているが^{5), 6)}、われわれは今回の検診において尿中のたん白排出状況と高血圧との関係を観察した。表16, 17はそれを示している。男性では縮期圧が190mmHg以上、ち期圧が90mmHg以上になると尿中のたん白陽性例はやや増加する。

つぎに血圧と間接撮影による心陰影所見との関係を検討し、その成績を表18に示した。全例を縮期圧及びち期圧の組み合わせにより第I~VII群に分け、第VII群は縮期圧における正常域とした。男性ではI>VI>IV>II>III>Vの順に例数が減じ、高血圧、高血圧群が最も多い。女性ではI>VI>II>V>III>IVの順に例数が減少し高血圧、高血圧群がやはり最も多い。間接撮影所見における心陰影は、撮影時の体位、管球焦点より蛍光板までの距離等により著しく変異する^{2), 5), 8)}。今回は特に心陰影の異常が著明なものをとりあげた。上記の所見と間接撮影所見における心陰影の変化の相関をみると、縮期圧における亜高血圧以上の高血圧を示す210例

中108例(51%)に心変形がみられた。男性79例中53例(67%), 女性131例中60例(45%)に変化がみられている。群別に観察するとI>II>IV>V>VI>IIIの順に変化例が少なくなり、高血圧、高血圧群は変化例が最も多い。男性ではII>I>IV>V>VI>IIIの順に変化例が少なく、女性ではI>II>V>IV>III>VIの順に変化例が少なく、男性では高血圧、亜高血圧群に、女性では高血圧、高血圧群に変化例が最も多い。年齢別にみると60才以上にいたると変化例が増加する傾向を示す。

つぎに高血圧症の既往歴を有する90例について年齢並びに血圧の変化の関係を観察した成績を表19に示した。90例中治療の結果正常となった例は32例(35.5%)で他の58例は治療が施したがMasterの規準による縮期圧が亜高血圧以上に属する例である。これら58例について縮期圧とち期圧とを組合わせて観察するとI, II, III群に属するものが42例(72%)と大多数をしめている。すなわちこれらの群に属するものが治療により改善されがたい例である。なお、I, II, III群に属する115例中42例(36%)は治療が施されたものであり、他の73例(63%)が無治療のもので、それらの大部分は無自覚性の高血圧所有例である。性別をみるとやや女性に多い傾向を示した。年齢別にみると中年層に多い。新氏の調査によると血圧と脳卒中発作との関係において縮期圧200mmHg以上のものの18%、ち期圧120mmHg以上のものの30.6%に脳卒中がみられ、氏は脳卒中の発作とち期圧の上昇率との相関関係を強調している⁵⁾。われわれの検査例をみると脳卒中の有既往歴例は4例(71才, 男194~94mmHg, 64才男110~74mmHg, 62才女188~88mmHg, 53才男140~90mmHg)でいずれもち期圧は100mmHg以下である。

最近、高血圧検診の副次事項として若年層の高血圧症が問題視され報告されている⁵⁾。われわれも39才以下の検査例244例についての観察の結果を表20, 21に示す。縮期圧で149mmHg以下、ち期圧で99mmHg以下が大多数例であ

る。これらをMasterの規準により分類すると縮期圧の高血圧は16例(6.5%)ち期圧のそれは12例(5%)である。そのうち、24才女の200~120mmHg, 13才男の180~110mmHgの2例は著明な高血圧例である。ち期圧の正常例が少ないのは例数の絶対数が少ないためであり、訴えの多い人達が集ったためである。これら若年層の高血圧症は、大野の報告によれば予後はあまり悪くないが、正常血圧例に比し本態性高血圧症に移行するひん度が高いと言われるので、今後の経過観察に十分な注意が必要であろう。

III 乳せんしゅよう検査成績

乳せんしゅようは、特に訴えのある人のみを取りあげて検索を行った。神岡鉦山病院において7例、神岡町病院において10例、計17例の乳せんしゅようが精密検査をうけた。(表22)神岡鉦山病院においては全例にガン反応を行い、陽性例3例に対して試験切除を行った結果は慢性乳せん症1例、線維せんしゅ1例、異常なし1例で結局異常所見なしは5例であった。一方神岡町病院においては、4例に試験切除を行い慢性乳せん症1例、女性乳房2例、異常なし1例で、結局異常所見なしは7例であった。すなわち合計17例中、慢性乳せん症2例、線維せんしゅ1例、女性乳房2例、異常所見なし12例で乳ガン例はなかった。

IV 肺ガン並びに肺結核集団検診成績

従来の集団検診における肺ガン発見率は低い。卜部は1956年に181,683例の集団検診を行い7例(人口10万に対し4)の肺ガン患者を発見しているにすぎない⁶⁾。しかし、鈴木は40才以上のガン年令層に肺ガンが多いので、この年令層に対し、レ線集団検診を行えば、被検者1,000例に対し0.25の割合に肺ガン患者の発見があると報告している⁶⁾。われわれは40才以上1,021例に対し肺ガン集団検診を行ったが肺ガンは1例もなかった。肺結核は71例(6.9%)で男性414例中30例(7.2%), 女性607例中41例(6.7%)で男性にやや多くみられた。肺結核の

発見率は、昭和35年度健康診断検診時の成績(受診例100万に対し、0.37)に比べ著明に高率であるが、いずれも治療中あるいは経過観察中のもので無治療あるいは無自覚性、すなわち新発見例は1例もなかった。しかし神岡地区における40才以上、すなわち中年以上の肺結核り病率がかかなり高い。これは昭和35年度病類別死亡率の所見と一致した傾向といえよう。その他、けい肺結核が13例にみられたが、全例治療中あるいは経過観察中のものであった。(表23)

V 検便成績

1) 虫 卵

検便実施例1,094例中、かい虫25例、べん虫19例、十二指腸虫2例、東洋毛様線虫4例の保卵者を発見した。この結果は従来の報告と比較して非常に低い。このことは神岡町の保健衛生業務の反映と考えたい。(表24)

2) 潜血反応

検診前日より潜血反応を左右する食事の制限

を連絡し、万全を期したのであるが、集団検診における検査の意義が不徹底のためか成績に不一致の点が多く、陽性例の再検査時または問診にてそれが判明した例が多かった。従ってこの成績は胃集団検診の補助診断に供する程度に扱った。

VI 検尿成績

尿中たん白は高血圧検診の補助手段として取りあげ、女性について成績の不正確を免れないので、男性のみについて検討した結果はすでに報告した。

尿中糖検査によってこの真性糖尿病の発見はなかった。

VII その他

その外に内臓完全転位症2例(28才女, 57才女) Banti氏病(40才女)1例を発見した。また低血圧の1例に心臓弁膜症の合併がみられた。

結 語

われわれは岐阜県神岡地区における胃集団検診及び高血圧集団検診を企画した。年齢は40才以上の男女を対象とし、検診人員は1,268例である。そのうち40才以上のものは1,024例(13.7%)で男性409例(11.3%)、女性615例(15.6%)である。

胃集団検診において胃切除後の状態24例、検査不能3例、計27例を除く997例から検出した胃疾患は胃ガン2例、同疑2例、かいよう6例、同疑9例、慢性胃炎177例、胃下垂205例、幽門狭さく2例、アトニー2例、幽門炎1例、おう状胃1例である。胃下垂は最も多く、慢性胃炎はこれにつき、胃ガンは疑を含めて4例(0.4%)である。年齢別にみるとガンは50才以上の高年齢層に多く、かいようは慢性胃炎と同様54才以下の中年年齢層に多い。性別にみると、かいよう並びに慢性胃炎は男性に多く、胃下垂は女性に多い。

胃症状の訴えについて観察するに中年以上においては無自覚性の慢性胃炎及び胃かいようが増加する傾向がみられる。かいようあるいは慢性胃炎よりの無自覚性の悪性変化の意味において注意すべき所見であると考えられる。

30才以上の検診人員1,209例について年齢別血圧変化を観察するに、年齢の進むに従って高い血圧をていする例数が増加する。Masterの規準に従い血圧変動を分類し比較すると縮期血圧の高血圧は男性では60才より、女性では65才より増加の傾向がみられ、潜在性高血圧とみなされる亜高血圧は男性では50才より、女性では既に35才よりみられる。縮期血圧の高血圧出現率は男性より女性に多い。ち期血圧の高血圧は男性では45才より、女性では55才より増加し、潜在性高血圧とみなされる亜高血圧は男性では50才より、女性では若年齢層よりみられる。男性における尿中のたん白陽性度と高血圧との関係を観察

すると縮期圧190mmHg以上, ち期圧90mmHg以上の例にじん臓の合併症が加わることが多い。

間接撮影における心陰影の異常所見と高血圧との関係をみるに Master の規準による亜高血

圧以上に属する210例中108例(51%)に心変形を伴っている。

若年層の高血圧については244例中縮期圧のそれは16例(6.5%), ち期圧のそれは12例(5.2%)にみられる。

文

献

- 1) 厚生指標特集: 国民衛生の動向, 1961.
- 2) 公衆衛生集団検診法: 医歯薬出版, 1960.
- 3) 有賀, 本田, 新谷, 伊藤, 佐藤: “胃集団検診について”, 日本医事新報, 1754, 13, 1957.
- 4) 特集 “慢性胃炎の問題点”: 日本臨床, 20 (2), 1962.
- 5) 特集 “血圧異常の臨床”: 日本臨床18 (9), 1960.
- 6) 特集 “成人病集団検診”: 日本臨床, 18 (10), 1960.
- 7) 佐分利: “胃癌のレ線診断について”: 治療, 43 (8), 53, 1961.
- 8) 図説消化器病のレ線診断: 南山堂, 1961.
- 9) 腹部レ線写真統影講座胃癌: 金原, 1954.
- 10) 臨床検査の実際: 医学書院, 1959.

表 1

主 要 死 因 別

年 度	昭 和 30 年			昭 和 31 年		
	神岡町	岐阜県	全 国	神岡町	岐阜県	全 国
死 因 別 其 他						
人 口 数	26,871			26,471		
死 亡 者 数	198			214		
死 亡 率	74	80	78	80	84	80
神 經 系 及 び 感 覚 器	9.4	14.01	13.61	14.7	16.08	14.87
循 環 器 の 疾 患	7.5	6.75	6.09	12.8	7.08	6.60
悪 性 新 生 物	5.3	9.12	8.71	9.1	9.41	9.07
呼 吸 器 の 疾 患	5.7	6.06	4.83	3.2	5.33	4.84
消 化 器 の 疾 患	9.1	7.92	3.17	6.8	7.50	3.00
全 結 核	6.4	5.59	5.23	4.2	5.02	4.86
老 衰	9.1	7.12	6.71	9.4	8.50	7.58
不 慮 の 障 害	4.9	6.28	3.73	11.7	6.70	3.68
性 尿 器 系 の 疾 患	4.5	2.68	2.14	3.4	2.78	2.36

表 2 諸 外 国 の 死 亡 率 (人 口 10 万 対) 死 因 別

死 因	カナダ		アメリカ		日 本	フランス		西ドイツ	イタリヤ	スイス	イングランドウェールズ
	1968	1958	1960	1958	1960	1958	1958	1957	1957	1957	1958
悪 性 新 生 物	127.8	146.9	100.1	191.9	202.3	137.0	190.9	212.3			
胃 及 び 十 二 指 腸 の 疾 患	5.0	6.2	11.8	3.2	5.9	5.8	7.3	10.9			
中 枢 神 經 系 の 血 管 損 傷	88.7	110.1	160.4	136.7	175.7	141.2	121.8	168.9			
高 血 圧 症	28.6	50.6	16.1	10.6	18.1	31.7	40.4	43.5			

年 次 比 較 表 (人口1万に対し)

昭和 32 年			昭和 33 年			昭和 34 年			昭和 35 年		
神岡町	岐阜県	全 国	神岡町	岐阜県	全 国	神岡町	岐阜県	全 国	神岡町	岐阜県	全 国
26,440			26,776			27,174			27,024		
225			196			180			184		
85	86	83	73	78	74	66	80	74	68	80	76
19.7	16.43	15.17	14.6	15.73	14.86	16.2	16.45	15.37	14.0	16.71	16.04
11.3	8.23	7.31	7.8	7.70	6.48	7.7	8.39	6.77	13.3	8.73	7.27
6.4	9.05	9.13	7.5	9.36	9.55	6.6	9.60	9.82	5.5	7.49	10.01
7.9	8.26	5.92	6.0	6.61	4.76	5.5	5.68	4.52	6.7	5.07	4.92
5.3	7.38	2.57	5.2	6.90	2.51	6.6	7.17	2.33	5.2	7.91	2.11
4.2	4.57	4.69	5.2	4.29	3.94	3.3	4.03	3.55	3.0	3.64	3.41
7.9	9.37	8.05	4.1	5.83	5.55	6.6	7.20	5.67	6.3	6.25	5.28
8.3	6.86	3.79	7.8	7.02	3.89	7.4	6.90	4.48	6.3	4.19	4.15
2.3	3.34	2.14	1.5	2.22	1.90	1.5	2.22	1.77	1.9	1.76	1.14

表 3

神岡町集団検診編成表

I 指導並びに企画

II 集団検診担当

III 胃精密検診担当

IV 経過観察並びに治療担当

V 集 計 担 当

卜部

医師: 村沢, 高野, 出口, 村上, 高田, 上原

レ線技師: 福田, 西家 レ線補助者 2名

神岡町保健婦: 2名

事務補助者: 2~3名

医師: 村沢, 本多

レ線技師: 渡辺, 追分

神岡町保健婦: 2名

事務補助者: 2名

神岡鉾山病院 富田外

神岡町病院 本多外

開業医の方々

村沢, 本多

図1. 昭和34年度特定死因別死亡率曲線 男性

3,000 人口10万対

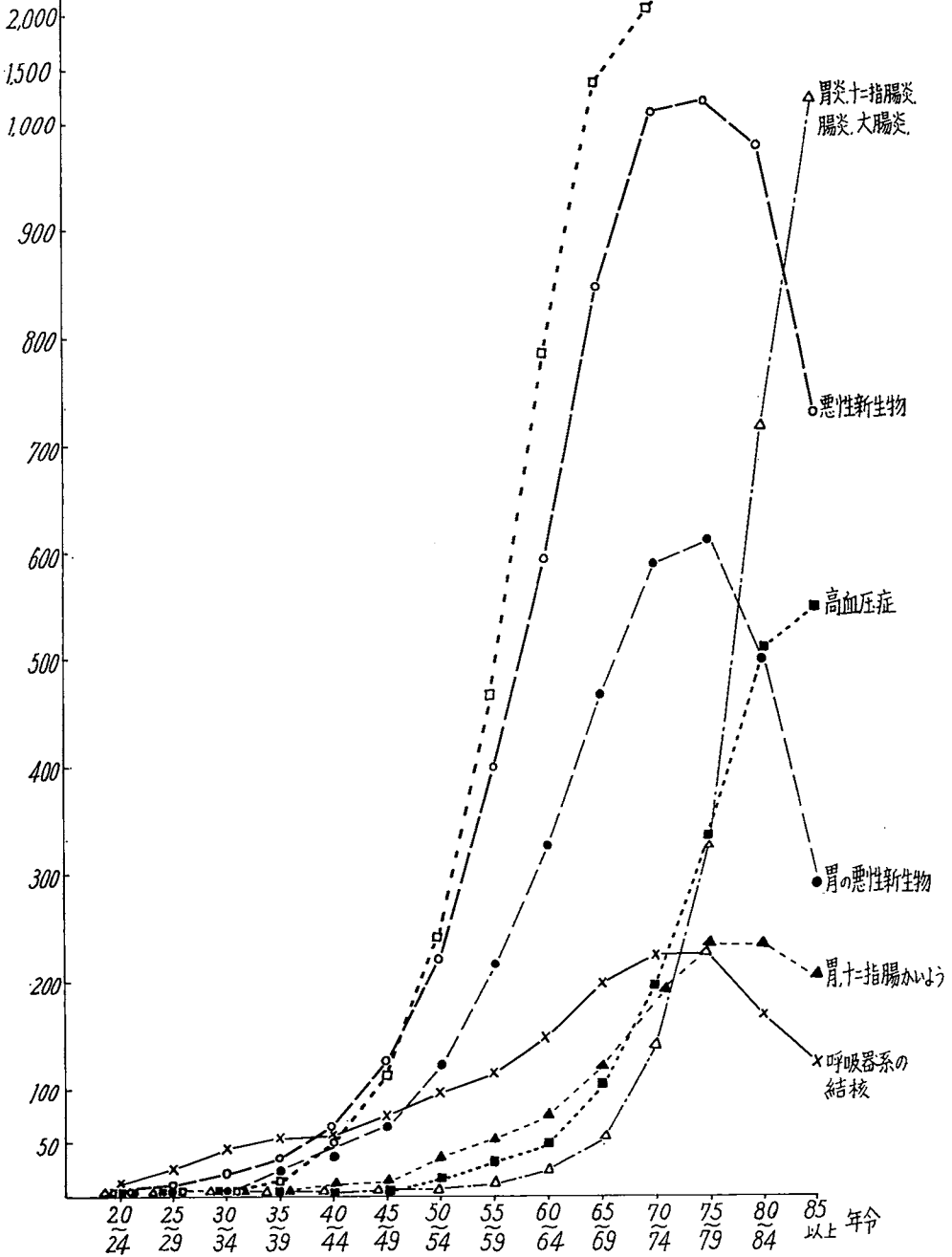


図2. 昭和34年度特定死因別死亡率年令別曲線 女性

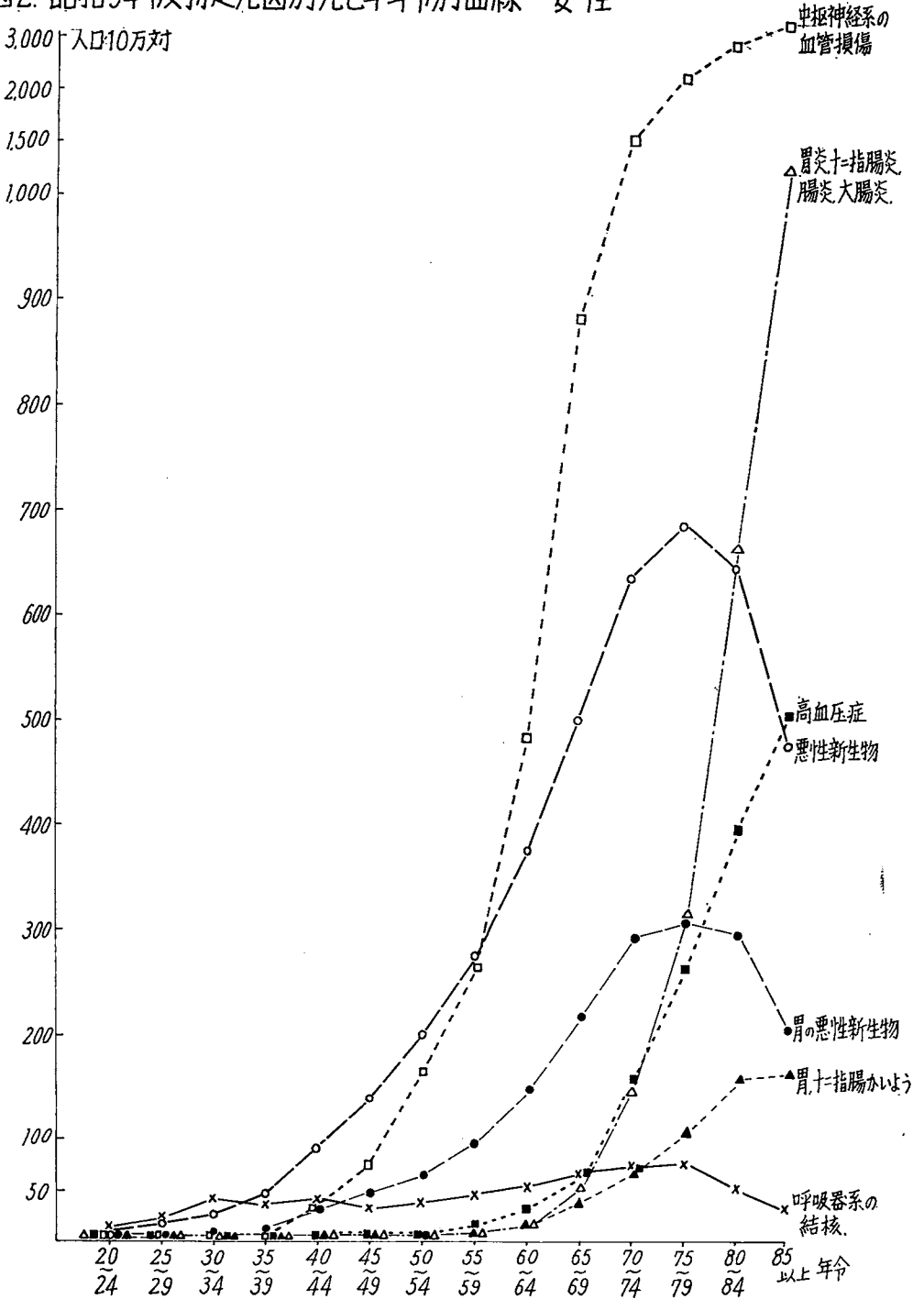


表 6

番号	年齢	性	間接撮影所見	胃の訴え		判定 (精密検診による)
				潜反血	症状	
1	80	女	小彎の強直, 胃下垂	-	+	胃ガンの疑
2	74	男	充えいの欠損, ガンの疑	++	-	胃ガン (isotope 治療中)
3	68	女	幽門炎, 十二指腸球部変形, 胃下垂	++	++	幽門部きょうさく
4	67	男	通過障害, 幽門きょうさく?	+	-	かいようの疑, 慢性胃炎
5	67	女	通過障害, 幽門部, 十二指腸球部変形	-	-	慢性胃炎
6	65	女	ニツシエ?, 胃下垂, 胃炎	不明	++	慢性胃炎, 胃下垂
7	65	女	幽門部, 十二指腸球部変形	+	++	慢性胃炎, 砂時計胃
8	64	男	幽門部, 十二指腸球部変形, 胃下垂	-	++	慢性胃炎
9	61	男	十二指腸球部変形, 胃炎	++	+	十二指腸かいよう
10	59	男	充えいの欠損, ガンの疑	++	++	胃ガン (術後6カ月で予後不良死亡)
11	57	男	大彎のきょ歯状変化著明, 胃炎	+	+	慢性胃炎, 牛角胃
12	56	女	幽門部変形, 胃下垂	-	-	胃下垂, 幽門部閉鎖不全
13	56	女	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃炎	+	++	慢性胃炎 (軽度)
14	56	女	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃炎	不明	+	かいようの疑, 慢性胃炎
15	55	男	爆状胃	-	+	慢性胃炎, 爆状胃
16	54	女	通過障害, 胃炎	-	+	十二指腸球部きょうさく, 慢性胃炎
17	53	女	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃下垂	±	++	十二指腸かいようの疑, 胃下垂
18	52	女	通過障害, 胃下垂, 胃炎	++	++	慢性胃炎, 胃下垂
19	51	女	通過障害, のう胃, 胃炎	-	-	のう状胃
20	51	女	大彎のきょ歯状変化著明, 胃炎	+	-	慢性胃炎 (胃周囲炎型)
21	51	女	幽門部変形, 胃炎	-	-	かいようの疑, 慢性胃炎 (胃周囲炎型)
22	50	男	十二指腸球部変形, 胃拡張	-	+	十二指腸かいよう
23	50	男	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃下垂	-	+	慢性胃炎, のう胃
24	50	男	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃炎	-	++	慢性胃炎
25	50	男	大彎のきょ歯状変化著明, 胃炎	-	++	慢性胃炎 (高分泌型)
26	50	女	十二指腸球部変形, 胃下垂	±	+	慢性胃炎, 胃下垂
27	50	女	通過障害	-	-	慢性胃炎 (軽度)
28	50	女	十二指腸球部変形, 胃下垂, 胃炎	不明	++	胃下垂
29	50	女	通過障害, 胃下垂	-	++	幽門部きょうさくの疑
30	49	女	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃下垂, のう胃	+	-	慢性胃炎 (高度顆粒状)
31	48	男	通過障害, 十二指腸球部変形	±	-	十二指腸かいよう, 慢性胃炎
32	47	男	胃角, 十二指腸球部変形, 胃炎	+	+	十二指腸かいようの疑

番号	年齢	性	間接撮影所見	潜反血	胃の 症訴 状態	判定 (精密検診による)
33	47	男	幽門部変形, 胃下垂	-	+	慢性胃炎, 胃下垂
34	47	男	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃下垂	-	++	十二指腸かいよの疑
35	47	男	幽門部, 十二指腸球部変形	++	++	かいよ (手術実施, 経過良好)
36	46	男	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃炎	-	+	かいよの疑
37	46	女	大彎のきょ歯状変化著明, 胃炎	不明	+	慢性胃腸炎 (高度)
38	46	女	通過障害, 胃下垂	-	++	慢性胃炎
39	46	女	通過障害, 胃炎, 胃下垂	+	+++	アトニー, 幽門炎
40	45	女	ニツシエ?, 胃下垂, 胃炎	-	-	慢性胃炎 (肥厚性)
41	45	女	幽門部変形, 胃炎	+++	++	かいよの疑, 胃下垂
42	44	男	幽門部きょうさく, 胃炎	-	++	かいよの疑
43	44	男	通過障害, 幽門部きょうさく, 胃拡張	+	-	慢性胃炎, 爆状胃
44	44	女	通過障害, 十二指腸球部変形, 胃下垂	++	-	十二指腸かいよ
45	43	男	十二指腸球部変形, 胃下垂, 胃炎	-	+	慢性胃炎
46	42	男	通過障害	-	-	幽門炎 (高分泌型)
47	42	女	十二指腸球部変形, 胃炎	-	+	十二指腸かいよ, 慢性胃炎 (高度)
48	41	男	十二指腸球部変形, 胃下垂	-	+	慢性胃炎
49	40	男	十二指腸球部変形, 胃下垂, 胃炎	±	++	慢性胃炎, 十二指腸炎 (軽度)
50	40	女	十二指腸球部変形, 胃下垂, 胃炎	+++	+	慢性胃炎
51	40	女	十二指腸球部変形, 胃炎	+	+	慢性胃炎 (幽門炎型)
52	40	女	十二指腸球部変形, 胃下垂, 胃炎	不明	++	アトニー, 慢性胃炎 (軽度)
胃切除後の状態 1例						
53	47	男	術後障害	++	++	術部かいよの疑
39才以下の精密検診 9例						
54	38	女	幽門部変形, 胃炎	-	++	異常所見なし (虫垂切除後遺症)
55	37	男	ニツシエ?, 胃下垂	-	+	慢性胃炎, 胃下垂
56	37	男	十二指腸かいよ治療中, 胃下垂	-	+	十二指腸かいよの疑
57	34	女	通過障害, 幽門部, 十二指腸球部変形, 胃炎	-	-	かいよの疑, 慢性胃炎 (高度)
58	31	女	ニツシエ?, 十二指腸球部変形, 胃炎	-	++	胃下垂
59	31	女	通過障害, 幽門部きょうさく, 胃下垂	不明	+	慢性胃炎
60	29	男	胃壁のレリーフのみだれ著明, 胃炎	+++	++	慢性胃炎
61	28	女	通過障害, 胃下垂, 胃炎	-	++	異常所見なし
62	13	女	通過障害	-	+	十二指腸かいよの疑

表 7 40才以上精密検診人員52例の年齢, 病類別比較表 (実数)

病類別・性別	年齢		40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上	計												
	男	女								男	女											
胃 ガン	男	女				1			1	2	2											
胃 ガンの疑	男	女			1				1	2	2											
か い よ う	男	女	2	2	1		1			4	6											
か い よ う の 疑	男	女	1	3				1		5	9											
き よ う さ く	男	女		1	2	1				4	2											
胃 炎	男	女	4	1	3	2	1			11	24											
胃 下 垂	男	女	2	4	3	1		3		13	3											
ア ト ニ ー	男	女			2	1				3	3											
そ の 他	男	女	1	1						2	2											
計	男	女	6	5	11	6	6	12	4	10	14	3	3	6	2	2	2	1	1	23	29	52

表 8 間接撮影所見, 精密検診比較表 (実数) () 内は胃下垂, 合併症例数

間接所見 精検所見	陰影欠損	胃壁硬直	通過障害(+) 異常変形(+)	通過障害(-) 異常変形(+)	通過障害(+) 異常変形(-)	胃大彎の きよ歯状 変化悪化 著明	ニツシエ?	爆状胃	計
胃 ガン	2								2
胃 ガンの疑		1			1				2
か い よ う			2	4					6
か い よ う の 疑			5(2)	4					9
き よ う さ く				1	1				2
胃 炎			6(3)	9(9)	2(1)	4	2	1	24
胃 下 垂				2	1				3
ア ト ニ ー				1	1				2
そ の 他					2				2
計	2	1	13(5)	21(9)	8(1)	4	2	1	52

か い よ う, 同 疑, 胃 炎 の み と し た 表 () 内 は 胃 下 垂, 合 併 症

間接所見 精検所見	通過障害(+)	異常変形(+)	通過障害(+) 異常変形(+)	通過障害(-) 異常変形(+)	通過障害(+) 異常変形(-)
か い よ う	2	6	2	4	
か い よ う 疑	5(2)	9	5(2)	4	
胃 炎	8(4)	15(12)	6(3)	9(9)	2(1)
計	15(6)	30(12)	13(5)	17(9)	2(1)

表 9 (1) 間接撮影所見, 精密検診, 潜血反応, 胃症状訴え比較表

(但し, かいよう, 同疑, 胃炎のみとす) () 内は胃下垂合併

精検所見	間接所見				計	間接所見			計	精検所見	
	潜血反応	胃訴え	通障(+)	通障(-)		通障(+)	通障(-)	通障(+)			
			変形(+)	変形(+)	変形(-)		変形(+)	変形(+)	変形(-)		
かいよう	潜胃	血 (+)		2		2	1	5(5)		6(5)	胃 炎
	潜胃	血 (+)	2			2	2(1)			2(1)	
	潜胃	血 (-)			2		2(2)	4(4)	1(1)	7(7)	
	潜胃	血 (+)					1		1	2	
	潜胃	血 (-)								2(1)	
	計		2	4		6	6(3)	9(9)	2(1)	17(13)	
かいようの疑	潜胃	血 (+)	2	1		3		1		1	きようさく
	潜胃	血 (+)		1		1					
	潜胃	血 (-)			1				1	1	
	潜胃	血 (+)	3	1		4					
	潜胃	血 (-)			1		1				
	計		5	4		9		1	1	2	

潜血…潜血反応 胃訴え…胃症状の訴え 変形…異常変形 通障…通過障害

表 9 (2) 間接撮影所見, 精密検診, 潜血反応, 胃症状訴え比較表

(但し, かいよう, 同疑, 胃炎のみとす) () 内は胃下垂合併症例数

精検所見	間接所見		通過障害 (+)		通過障害 (-)		通過障害 (+)		計
	潜血反応	胃訴え	異常変形 (+)	異常変形 (-)	異常変形 (+)	異常変形 (-)	異常変形 (+)	異常変形 (-)	
潜血反応(+)	かいよう	同疑	2	3	2	1	2	1	2
胃訴え(+)	同疑	胃炎	1		1	5(5)	1	6(5)	11
潜血反応(+)	かいよう	同疑	2		2	1	2	1	2
胃訴え(-)	同疑	胃炎	2(1)	4(1)	1	1	1	2(1)	5
潜血反応(-)	かいよう	同疑	3		2	1	2	1(1)	2
胃訴え(+)	同疑	胃炎	2(2)	5(2)	1	7(4)	1(1)	7(7)	13
潜血反応(-)	かいよう	同疑	1	1	1	1	1	1	3
胃訴え(-)	同疑	胃炎							2
計	かいよう	同疑	2	5	4	4	2	6	32
	同疑	胃炎	6(3)	13	9(9)	17	2(1)	17	

表 10 胃 ガ ン 発 見 率 の 比 較 (有賀論文より)

実 施 者			選 出 方 法 (主としてレ線検査)	被 検 者 数	胃ガン発見数(%)
Dailey,	他	(1954)	透 視	500	0
Ringler,	他	(1948)	直 接 透 視 撮 影	544	14(2.6)
Amberg,	他	(1948)	直 接 透 視 撮 影	3,210	15(0.5)
Roach,	他	(1948)	間 接 撮 影	10,000	59(0.59)
Wigh,	他	(1948)	間 接 撮 影	5,341	12(0.2)
大 原,	他	(1955)	間 接 撮 影	132	2(1.5)
小 坂,	他	(1956)	間 接 撮 影	522	2(0.4)
若 林,	他	(1957)	透 視 し て 間 接	403	0
湯 川,	他	(1957)	間 接 撮 影	472	0
入 江,	他	(1959)	直 接 透 視 撮 影	158	4(2.5)
黒 川,	他	(1956)	間 接 撮 影	435	2(0.45)
有 賀,	他	(1956~1959)	間 接 撮 影	7,637	54(0.7)
ト 部,	他	(1961)	間 接 撮 影	997	4(0.4)

表 11 40才以上検診人員997例の年令別, 病類別比較表 (実数) ()内は%
(但し, 胃切除後の状態24例, 検診不能3例, 計27例を除いた例数)

病類別 ・性別	年令								計						
	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上								
胃 ガ ン {男 {女				1(1.6)			1(7.1)	2(0.5)	2(0.2)						
胃 ガ ン 疑 {男 {女			1(0.8)				1(4.1)	2(0.5)	2(0.2)						
かいよう {男 {女	2(1.4)	2(2.3)	1(1.6)		1(2.2)			4(1.0)	2(0.5)						
かいよう 疑 {男 {女	1(1.0)	3(3.3) 1(0.7)	2(1.6)	1(0.9)		1(2.7)		5(1.24) 4(0.6)	9(0.5)						
き よ う く {男 {女			1(0.8)			1(2.7)		2(0.5)	2(0.2)						
胃 炎 {男 {女	25(26.5) 26(19.2)	21(23.3) 30(22.3)	15(24.6) 18(15.9)	14(23.3) 9(8.8)	5(11.3) 3(5.1)	5(14.2) 3(8.8)	1(7.1) 2(8.2)	86(21.6) 91(15.1)	177(17.7)						
胃 下 垂 {男 {女	13(13.8) 23(17.0)	11(12.2) 35(26.1)	11(18.6) 33(28.9)	8(13.3) 24(23.5)	7(15.9) 16(27.5)	3(7.5) 11(32.3)	1(7.1) 9(37.5)	54(13.6) 151(25.0)	205(20.5)						
そ の 他 {男 {女	1(1.0) 1(0.7)	1(0.7)	1(0.8)					1(0.2) 3(0.5)	4(0.4)						
所見なし {男 {女	54(57.3) 83(61.4)	53(58.8) 67(50.0)	34(54.7) 57(50.4)	36(61.0) 68(66.6)	31(70.4) 38(65.5)	27(77.1) 19(58.8)	11(78.5) 12(50.0)	246(62.2) 344(57.3)	590(59.0)						
計 {男 {女	94 135	229 134	90 224	61 113	174 174	59 102	161 161	44 57	101 101	36 34	70 70	14 24	38 38	398 599	997

表 12

30才以上の検診人員1,209例の

縮期圧 mmHg		99 以下	100~109	110~119	120~129	130~139	140~149
年齢・性別							
30 ~ 34	男	2(5.4)	4(17.3)	8(34.7)	5(21.7)	3(13.0)	2(8.6)
	女		6(16.2)	12(32.4)	8(21.6)	4(10.9)	2(5.4)
35 ~ 39	男	2(2.1)	5(13.8)	7(19.4)	10(27.7)	7(19.4)	4(11.1)
	女		9(9.7)	22(23.9)	32(34.7)	13(14.1)	9(9.4)
40 ~ 44	男	3(3.0)	12(12.2)	14(14.2)	32(32.6)	19(19.3)	9(8.1)
	女	3(2.2)	12(9.0)	26(19.6)	26(19.6)	23(17.4)	21(15.9)
45 ~ 49	男	3(3.3)	4(4.4)	10(11.1)	27(30.0)	16(17.7)	15(16.6)
	女	3(2.1)	5(3.5)	16(11.4)	36(25.7)	29(20.7)	16(11.4)
50 ~ 54	男	1(1.5)	4(3.5)	8(12.6)	11(17.4)	15(23.8)	9(14.2)
	女	3(2.6)		11(9.6)	18(15.7)	22(19.2)	20(17.5)
55 ~ 99	男		2(3.1)	7(11.1)	9(14.2)	7(11.1)	15(23.8)
	女		3(2.9)	8(7.7)	17(16.5)	13(12.6)	13(12.6)
60 ~ 64	男		1(2.2)	3(6.6)	3(6.6)	3(6.6)	7(15.5)
	女			4(6.6)	2(3.3)	9(15.0)	8(13.3)
65 ~ 69	男		1(2.5)	3(7.6)	3(7.6)	4(10.2)	6(15.3)
	女					1(2.8)	10(28.5)
70 以上	男				3(12.0)	2(15.3)	2(15.3)
	女					2(8.0)	4(16.0)
計	男	7(1.4)	29(6.1)	60(12.7)	100(21.2)	76(16.1)	69(14.6)
	女	13(1.7)	39(5.2)	101(13.6)	143(19.3)	119(16.1)	103(13.9)

表 13 30才以上の検診人員1,209例の年齢別血圧(ち期圧)ひん度比較表

(実数) () 内%

年齢・性別	ち期圧								計	
	50~59	60~69	70~79	80~89	90~99	100~109	110~119	120以上		
30~34	男	1(4.3)	5(21.7)	8(34.7)	6(26.0)	2(8.6)	1(4.3)		23	
	女	1(2.7)	10(27.0)	16(43.2)	5(13.5)	4(10.8)				37
35~39	男	3(3.2)	3(8.3)	14(38.8)	(25.0)	7(19.4)	2(5.5)	1(2.7)	36	
	女		14(15.3)	34(36.9)	25(27.1)	12(13.0)				4(4.3)
40~44	男	4(3.0)	11(11.2)	30(30.6)	40(40.7)	9(9.1)	5(5.1)	2(2.0)	1(1.0)	98
	女		16(12.1)	44(33.3)	39(29.4)	17(12.8)	7(5.3)	3(2.2)	2(1.5)	132
45~49	男	1(7.0)	8(8.8)	23(25.5)	32(35.5)	17(18.8)	3(3.3)	3(3.3)	4(4.4)	90
	女		8(5.7)	40(28.5)	51(36.4)	23(16.4)	8(5.7)	6(4.2)	3(2.1)	140
50~54	男	1(1.5)	4(6.3)	11(17.4)	22(34.9)	11(17.4)	7(11.1)	4(6.3)	3(4.7)	63
	女	1(8.0)	9(7.8)	31(27.1)	33(28.9)	17(14.9)	15(13.1)	8(7.0)		114
55~59	男	1(1.5)	10(15.8)	22(34.3)	15(23.4)	8(12.5)	5(7.5)	3(4.7)		64
	女		9(8.7)	13(12.6)	31(30.0)	25(24.2)	11(10.6)	10(9.7)	4(3.8)	103
60~64	男	2(4.4)	8(17.8)	7(15.5)	12(26.6)	10(22.2)	3(6.6)	3(6.6)		45
	女		2(3.3)	8(13.3)	19(31.6)	17(28.3)	9(15.0)	3(5.0)	2(3.3)	60
65~69	男	2(5.1)	4(10.2)	10(25.6)	10(25.6)	9(23.0)	4(10.2)			39
	女		3(8.5)	3(8.5)	11(31.6)	10(28.5)	4(11.4)	1(2.8)	3(8.5)	35
70以上	男	2(8.0)	1(7.6)	5(38.4)	3(23.0)	2(15.3)	2(15.3)			13
	女		2(8.0)	6(24.0)	5(20.0)	8(32.0)		1(4.0)	25	
計	男	2(0.4)	36(7.6)	109(22.7)	153(32.4)	86(18.2)	46(9.7)	24(5.0)	15(3.1)	471
	女	10(1.3)	73(9.8)	191(25.8)	219(29.6)	130(17.6)	67(9.0)	32(4.3)	15(2.0)	738

年令別血圧(縮期圧)ひん度比較表(実数) ()内は%

150~159	160~169	170~179	180~180	190~199	200 以上	計	
2(5.4)	1(4.3)	1(2.7)				23	60
1(2.7)	2(5.5)					36	128
3(3.2)	2(2.1)					92	
2(2.0)	8(6.0)	5(5.1)		1(1.0)	1(1.0)	98	230
5(3.7)		3(2.2)	3(2.2)	1(7.0)	1(7.0)	132	
9(10.0)	1(1.1)	2(2.2)	1(1.1)		2(2.2)	90	230
14(10.0)	11(7.8)	4(2.8)	3(2.7)		3(2.1)	140	
6(9.5)	7(11.1)	3(4.7)	2(3.1)		1(1.5)	63	177
15(13.1)	5(4.3)	9(7.8)	5(4.3)	1(8.0)	1(0.8)	114	
7(11.1)	7(11.1)	3(4.7)	3(4.7)	1(1.5)	3(4.6)	64	167
14(13.5)	11(10.6)	6(5.3)	3(3.9)	5(4.8)	10(9.6)	131	
6(13.3)	5(11.1)	1(2.2)	3(6.6)	4(8.8)	9(19.9)	45	105
6(10.0)	9(15.0)	10(16.6)	5(8.3)	4(6.6)	3(5.0)	60	
3(7.6)	5(12.8)	5(13.8)	1(2.5)	1(2.5)	7(17.9)	39	74
5(14.2)	3(8.5)	3(8.5)	1(2.8)	1(2.8)	1(2.8)	35	
2(15.3)	1(7.6)	2(15.3)	2(15.3)	1(7.6)	1(7.6)	13	38
5(20.0)	4(16.0)	1(4.0)	2(8.0)			25	
36(7.6)	29(6.1)	21(4.4)	12(2.5)	8(1.6)	24(5.0)	471	1,209
69(9.3)	53(7.1)	37(5.0)	22(2.9)	12(1.6)	27(3.6)	738	

表 14 30才以上検診人員1,209例の血圧(縮期圧)の Master

の規準による分類比較(実数) ()内は%

年令・性別	Master の規準			低血圧	亜低血圧	正 常	亜高血圧	高血圧	計	
	低血圧 上 限 mmHg	正常域 mmHg	高血圧 下 限 mmHg							
30~34 {男	100	110 ~ 145	155		4(17.3)	18(78.0)		1(4.3)	23	60
{女	98	102 ~ 135	145	2(5.4)		30(81.1)	2(5.4)	3(7.1)	37	
35~39 {男	102	110 ~ 145	160		5(13.8)	28(77.6)	1(2.7)	2(5.5)	36	128
{女	100	105 ~ 140	150	2(2.1)		76(82.4)	9(9.7)	5(5.3)	92	
40~44 {男	102	110 ~ 150	165	3(3.0)	12(12.2)	74(74.2)	2(2.0)	7(7.1)	98	230
{女	100	105 ~ 155	175	3(2.2)	12(9.0)	96(72.5)	3(9.7)	8(5.8)	132	
45~49 {男	104	110 ~ 155	170	3(3.3)	4(4.4)	77(85.4)	1(1.1)	5(5.5)	90	230
{女	100	105 ~ 155	175	3(2.1)	5(3.5)	111(79.2)	15(10.6)	6(4.2)	140	
50~54 {男	105	115 ~ 160	175	1(1.5)	8(12.6)	41(64.9)	10(15.8)	3(8.6)	63	177
{女	105	110 ~ 165	180	7(6.1)		86(75.1)	14(12.1)	7(6.1)	114	
55~59 {男	106	115 ~ 165	180	2(3.1)	7(11.1)	45(71.3)	3(4.7)	7(10.8)	64	167
{女	105	110 ~ 170	180	3(2.9)		76(73.2)	9(8.2)	15(14.8)	103	
60~64 {男	108	115 ~ 170	190	1(2.2)	3(6.6)	24(53.1)	4(8.8)	13(28.7)	45	105
{女	105	115 ~ 175	190		4(6.6)	44(73.2)	9(15.0)	3(5.0)	60	
65~69 {男				1(2.5)	3(7.6)	21(53.8)	6(15.3)	8(20.4)	39	74
{女					2(5.7)	26(73.9)	2(5.6)	5(14.2)	35	
70以上 {男						7(53.5)	4(30.6)	2(15.2)	13	38
{女						19(76.0)	2(8.0)	4(16.0)	25	
計 {男				11(2 .3)	46(9.7)	335(71.1)	31(6.5)	48(10.1)	471	1,209
{女				20(2 .7)	23(3.1)	564(76.4)	75(10.1)	56(7.5)	738	

表 15 30才以上検診人員1,209例の血圧(ち期圧)のMaster
の規準による分類比較表(実数)()内は%

年齢・性別	Masterの規準				低血圧	亜低血圧	正 常	亜高血圧	高血圧	計
	低血圧 上 限 mmHg	正常域 mmHg	高血圧 下 限 mmHg							
30~34 {男女	60	68 ~ 92	98	98	1(4.3)	5(21.7)	14(60.7)	2(8.6)	1(4.3)	23 37 60
	55	60 ~ 88	95	95	1(2.7)		31(83.7)	4(10.8)	1(2.7)	
35~39 {男女	60	68 ~ 92	100	100		3(8.3)	23(63.8)	7(19.4)	3(8.3)	36 92 128
	60	65 ~ 90	98	98	3(3.2)	14(15.3)	59(64.0)	12(13.0)	4(4.3)	
40~44 {男女	60	70 ~ 94	100	100		11(11.2)	70(71.3)	9(9.1)	8(8.1)	98 132 230
	60	65 ~ 92	100	100	4(3.0)	16(12.1)	83(62.7)	17(12.8)	12(9.0)	
45~49 {男女	60	70 ~ 96	104	104		8(8.8)	72(79.8)		10(11.0)	90 140 230
	60	65 ~ 96	105	105	1(0.7)	8(5.7)	114(81.3)	8(5.7)	9(6.3)	
50~54 {男女	60	70 ~ 98	106	106	1(1.5)	4(6.3)	44(69.6)	7(11.0)	7(11.0)	63 114 177
	60	70 ~ 100	108	108	1(0.8)	9(7.8)	81(70.9)	15(13.1)	8(7.0)	
55~59 {男女	60	70 ~ 98	108	108		1(1.5)	47(73.5)	8(12.5)	8(12.5)	64 103 167
	60	70 ~ 100	108	108		9(8.7)	69(66.8)	11(10.6)	14(13.5)	
60~64 {男女	60	70 ~ 98	110	110		2(4.4)	27(60.0)	10(22.2)	6(13.2)	45 60 105
	60	70 ~ 100	110	110		2(3.3)	44(73.3)	9(15.0)	5(8.3)	
65~69 {男女						2(5.1)	24(61.4)	9(23.0)	4(10.2)	39 35 74
						3(8.5)	24(68.4)	4(11.4)	4(11.3)	
70以上 {男女							9(69.0)	2(15.3)	2(15.3)	13 25 38
						2(8.0)	13(52.0)	8(32.0)	2(8.0)	
計 {男女					2(0.4)	36(7.6)	330(69.9)	54(11.4)	49(10.3)	471 738 ¹ ,209
					10(1.3)	63(8.5)	517(70.0)	88(11.9)	59(7.9)	

表 16

30才以上検診人員男子471例の年令別血圧 (縮期圧)

年令	血圧 mmHg 尿たん白反応	99 以下				100 ~ 119				120 ~ 139				140 ~ 159			
		-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++
30 ~ 34						12.				6.	2.					2.	
35 ~ 39						12.				15.	2.					5.	
40 ~ 44		2.	1.			23.	2.	1.		44.	6.					10.	1.
45 ~ 49		3.				14.				43.						22.	1. 1.
50 ~ 54		1.				8.				21.	5.					14.	1.
55 ~ 59						8.	1.			15.	1.					21.	1.
60 ~ 64						4.				6.						11.	1. 1.
65 ~ 69						1.	2.	1.		3.	2.	2.				8.	1.
70 以上										2.						2.	2.
計		6.	1.			82.	5.	2.		155.	18.	2.	1.			95.	8. 2.

表 17

30才以上検診人員男子471例の年令別血圧 (ち期圧)

年令	血圧 mmHg 尿たん白反応	50 ~ 59				60 ~ 69				70 ~ 79				80 ~ 89			
		-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++
30 ~ 34			1.			5.				7.	1.					6.	
35 ~ 39						3.				13.	1.					9.	
40 ~ 44						9.	2.			27.	2.	1.				33.	5. 1. 1.
45 ~ 49						8.				23.						32.	
50 ~ 54		1.				4.				10.	1.					20.	2.
55 ~ 59						1.				8.	2.					22.	
60 ~ 64						1.	1.			6.		1. 1.				7.	
65 ~ 69						2.				2.	1. 1.					7.	1. 2.
70 以上												1.				5.	
計		1.	1.			33.	3.			96.	8.	4. 1.				141.	8. 3. 1.

尿中たん白比較表 (実数) -…陰性 ±…疑陽性 +, ++~+++…陽性の強さ

160 ~ 179				180 ~ 199				200 以上				計			
-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++
1.												21.	2.		
1.	1.											33.	2.	1.	
2.	1.	1.	1.	1.				1.				83.	10.	3.	1.
2.	1.						1.	2.				86.	2.	1.	1.
6.	2.	1.	1.	1.	1.			1.				52.	9.	1.	1.
8.	2.			2.	1.	1.		2.	1.			56.	7.	1.	
3.	1.	2.		6.	1.			6.	3.			36.	5.	2.	2.
9.	1.			2.				6.	1.			29.	7.	3.	
3.				2.	1.					1.		9.	2.	2.	
35.	8.	3.	4.	14.	2.	3.	1.	18.	5.	1.		405.	46.	14.	6.

尿中たん白比較表 (実数) -…陰性 ±…疑陽性 +, ++~+++…陽性の強さ

90 ~ 99				100 ~ 109				110 ~ 119				120 以上				計			
-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++	-	±	+	++~ +++
2.								1.								21.	2.		
5.	1.	1.		2.								1.				33.	2.	1.	
8.	1.			4.	1.			1.		1.		1.				83.	10.	3.	2.
15.	1.	1.		2.		1.		3.				3.	1.			86.	2.	1.	1.
8.	3.			4.	2.	1.		2.	1.	1.		3.				52.	9.	1.	1.
15.				8.				1.	4.			1.	1.	1.		56.	7.	1.	
9.	2.	1.		9.	1.			3.				1.	2.			36.	5.	2.	2.
7.	3.			8.	1.			3.	1.							29.	7.	3.	
2.	1.			2.					1.	1.						9.	2.	2.	
71.	11.	3.	1.	39.	4.	1.	2.	14.	7.	2.	1.	10.	4.	1.		405.	46.	14.	6.

表 18 30才以上の間接撮影心陰影有所見113例の年令別血圧比較表 (実数)

血圧分類は Master の規準による.

() 内は心陰影有所見例数

縮…縮期圧 ち…ち期圧

今年・性別	血圧		I 高血圧 高血圧	II 高血圧 亜高血圧	III 亜高血圧 高血圧	IV 高血 正 常	V 亜高血圧 亜高血圧	VI 亜高血圧 正 常	VII 正 常	計
	縮 ち	高 高								
30~34 {男女}	1 (1) 1 (1)	2			1 1		1	1	18 30	19 (1) 35 (1)
35~39 {男女}	1 2 (1)	1 3 (1)			1 5 (2)		4	4	28 76	31 90 (2)
40~44 {男女}	6 (5) 5 (2)	1 (1) 2 (2)			1 4 (2)	1	6 (1)	1 2	74 96	83 (6) 117 (7)
45~49 {男女}	5 (1) 5 (4)	1			1 4 (2)		3 (2)	8 (1)	77 111	83 (1) 132 (9)
50~54 {男女}	2 (2) 2 (2)	1 2 (1)			1 (1) 2 (1)	3 (1)	3 (3) 6 (4)	3 5 (3)	41 86	54 (5) 107 (13)
55~59 {男女}	4 (3) 10 (8)	2 (2) 4 (3)			1 (1) 2 (1)	1 (1) 1 (1)	3 (3)	2 (1) 4 (1)	45 (1) 76 (1)	55 (9) 100 (18)
60~64 {男女}	2 (3) 5 (2)	4 (2) 1 (1)			2 (1)	4 (1)	1 (1) 2 (2)	3 (1) 5 (2)	24 44 (1)	41 (8) 56 (9)
65~69 {男女}	2 (2) 2 (1)	2 (2) 2			2	4 (4) 1 (1)	3 1 (1)	1 (1) 1	21 26 (1)	35 (9) 33 (4)
70以上 {男女}	1 1 (1)	3 (3)				1 (1)	1 (1) 1 (1)	3 (2) 1 (1)	7 19 (1)	33 (4) 25 (7)
計	男	27 (17) 62%	11 (7) 63%	10 (1) 10%	10 (7) 70%	8 (5) 62%	13 (5) 38%	335 (1) 3%	414 (43) 10%	
	女	30 (22) 70%	20 (11) 55%	17 (8) 47%	6 (3) 50%	27 (14) 51%	31 (8) 25%	564 (4) 7%	695 (70) 10%	
		57 (39) 68%	31 (18) 58%	27 (9) 33%	16 (10) 62%	35 (19) 54%	44 (13) 29%	899 (5) 5%	1,109 (113) 10%	

表 19 30才以上の高血圧既往歴所有90例の年令別血圧比較表 (実数)

血圧分類は Master の規準による.

() 内は既往歴所有例数

縮…縮期圧 ち…ち期圧

年令・性別	血圧		I 高血圧	II 高血圧	III 亜高血圧	IV 高血圧 正	V 亜高血圧 亜高血圧	VI 亜高血圧 正	VII 正	計
	縮	ち								
30~34 {男女}	1 1			2			1	1	18 30	19 35
35~39 {男女}	1 2 (1)			1 (1) 3 (1)	1 (1) 1 (1)		4 (1)	4	28 76 (1)	31 (2) 90 (5)
40~44 {男女}	6 (2) 5 (3)			1 2 (1)	1 5 (1)	1	6 (1)	1 (1) 2	74 (1) 96	83 (4) 117 (6)
45~49 {男女}	5 (2) 5 (2)			1	1 4 (3)		3	7 (2)	77 (1) 111 (6)	83 (3) 132 (13)
50~54 {男女}	2 2			1 2 (1)	4 (1) 3	3	3 6	3 (1) 5 (1)	41 (2) 86 (3)	54 (4) 107 (5)
55~59 {男女}	4 (1) 10 (3)			2 4 (2)	1 (1) 2 (1)	1 (1) 1	3 (1)	2 4 (2)	45 (4) 76 (3)	55 (7) 100 (12)
60~64 {男女}	5 (3) 2 (1)			4 (1) 1	2 (1) 2 (1)	4	1 2	3 (1) 5 (2)	24 (2) 44 (5)	41 (7) 56 (9)
65~69 {男女}	2 (1) 2 (1)			2 (2) 2 (1)	2	4 1	3 1	1 1	21 26 (2)	35 (3) 33 (4)
70以上 {男女}	1 1			3 (2)		1 (1)	1 1	3 1	7 19 (2)	13 (1) 25 (5)
計	{男}		27 (9) 31%	11 (4) 36%	10 (3) 30%	10 (2) 20%	8	13 (3) 23%	335 (10) 3%	414 (31) 7%
	{女}		30 (11) 36%	20 (8) 40%	17 (7) 41%	6	27 (3) 11%	31 (8) 25%	564 (22) 3%	695 (59) 8%
			57 (20) 34%	31 (12) 38%	27 (10) 37%	16 (2) 12%	35 (3) 8%	44 (11) 25%	899 (32) 3%	1,109 (90) 8%

表 20

39才以下の検診人員244例の年齢別血圧（縮期圧）ひん度比較表（実数）（ ）内は%

血圧mmHg 年齢・性別	99以下	100~ 109	110~ 119	120~ 129	130~ 139	140~ 149	150~ 159	160~ 169	170~ 179	180~ 189	190~ 199	200以上	計	
19 以下 {男女}		1	4(50.0)	2(25.0)	1(12.5)					1(12.5)			8 1	9
20 ~ 24 {男女}	1(25.0)	1(25.0) 1(12.5)	1(12.5)		1(25.0) 4(50.0)	1(25.0) 1(12.5)						1(12.5)	4 8	12
25 ~ 29 {男女}		1(10.0) 5(20.0)	3(30.0) 6(24.0)	3(30.0) 8(32.0)	2(20.0) 4(16.0)	1(10.0) 2(8.0)							10 25	35
30 ~ 34 {男女}	2(5.4)	4(17.3) 6(16.2)	8(34.7) 12(32.4)	5(21.7) 8(21.6)	3(13.0) 4(10.9)	2(8.6) 2(5.4)	2(5.4)	1(4.3)	1(2.7)				23 37	60
35 ~ 39 {男女}	2(2.0)	5(13.8) 9(9.7)	7(19.4) 22(23.9)	10(27.7) 32(34.7)	7(19.4) 13(14.1)	4(11.1) 9(9.7)	1(2.7) 3(3.2)	2(5.5) 2(2.1)					36 92	128

39才以下の検診人員244例の血圧（縮期圧）の Master の規準による分類比較表（実数）（ ）内は%

血 圧 年齢・性別	低血圧上限 mmHg	正 常 域 mmHg	高血圧下限 mmHg	低 血 圧	亜低血圧	正 常	亜高血圧	高 血 圧	計	
19 以下 {男女}	98 95	105~140 100~130	150 140			7(87.5) 1		1(12.5)	8 1	9
20 ~ 24 {男女}	98 95	105~140 100~130	150 140		2(50.0)	2(50.0) 2(25.0)	4(50.0)	2(25.0)	4 8	12
25 ~ 29 {男女}	100 98	105~140 102~130	150 140		1(10.0)	8(80.0) 19(76.0)	1(10.0) 4(16.0)	2(8.0)	10 25	35
30 ~ 34 {男女}	100 98	110~145 102~135	155 145	2(5.4)	4(17.3)	18(78.0) 30(81.1)	2(5.4)	1(4.3) 3(7.1)	23 37	60
35 ~ 39 {男女}	102 100	110~145 102~140	155 150	2(2.1)	5(13.8)	28(77.6) 76(82.4)	1(2.7) 9(9.7)	2(5.5) 5(5.3)	36 92	128

表 21

39才以下の検診人員224例の年齢別血圧（ち期圧）ひん度比較表（実数）（ ）内は%

血圧 mmHg 年齢・性別	50 ~ 59	60 ~ 69	70 ~ 79	80 ~ 89	90 ~ 99	100~109	110~119	120~129	計	
19 以下 {男女}		3(37.5)	1(12.5) 1	3(37.5)			1(12.5)		8 1	9
20 ~ 24 {男女}	1(25.0) 2(25.0)	1(25.0)	1(25.0) 3(37.5)	2(25.0)	1(25.0)			1(12.5)	4 8	12
25 ~ 29 {男女}	1(4.0)	3(30.0) 5(20.0)	3(30.0) 13(52.0)	2(20.0) 5(20.0)	2(20.0) 1(4.0)				10 25	35
30 ~ 34 {男女}	1(4.3) 1(2.7)	5(21.7) 10(27.0)	8(34.7) 16(43.2)	6(26.0) 5(13.5)	2(8.6) 4(10.8)	1(2.7)	1(4.3)		23 37	60
35 ~ 39 {男女}	3(3.2)	3(8.3) 14(5.3)	14(38.8) 34(36.9)	9(25.0) 25(27.1)	7(19.4) 12(13.0)	2(5.5) 4(4.3)		1(2.7)	36 92	128

39才以下の検診人員224例の血圧（ち期圧）の Master の規準による分類比較表（実数）（ ）内は%

血 圧 年齢・性別	低血圧上限	正 常 域	高血圧下限	低 血 圧	亜低血圧	正 常	亜高血圧	高 血 圧	計	
19 以下 {男女}	55 55	60 ~ 88 60 ~ 85	95 90			7(87.5) 1		1(12.5)	8 1	9
20 ~ 24 {男女}	56 55	62 ~ 88 60 ~ 85	95 95		1(25.0) 2(25.0)	2(50.0) 5(62.5)	1(25.0)	1(12.5)	4 8	12
25 ~ 29 {男女}	60 55	65 ~ 90 60 ~ 80	96 92		3(30.0) 1(4.0)	5(50.0) 18(72.0)	2(20.0) 5(20.0)	1(4.0)	10 25	35
30 ~ 34 {男女}	60 55	68 ~ 92 60 ~ 88	98 95	1(4.3) 1(2.7)	5(21.7)	14(60.7) 31(83.7)	2(8.6) 4(10.8)	1(4.3) 1(2.7)	23 37	60
35 ~ 39 {男女}	60 60	68 ~ 92 65 ~ 90	100 98	3(3.2)	3(8.3) 14(15.3)	23(63.8) 59(64.0)	7(19.4) 12(13.0)	3(8.3) 4(4.3)	36 92	128

表 22 乳 せ ん し ゅ よ う の 検 診

神岡鉾山病院 富田博士提供 7例

赤沈—赤血球沈降速度

試切：試験切除

1時間値/2時間値

R…赤血球 W…白血球 S…Sahli GB…血液比重

番号	年令性	診 断	ガ ン 反 応				血 液 検 査				判 定	
1	46 女	右 乳せんしゅよう	C.R.P. (-)	M.C.R. (-)	コバルト R ₄	カドミウム R ₅	赤沈 ²⁰ / ₄₉				異常なし	
2	45 女	左 乳せんしゅよう	(-)	(-)	R ₄	R ₇	異常なし				異常なし	
3	39 女	両側乳せんしゅよう	(-)	(-)	R ₄	R ₇	赤沈 ⁷ / ₂₃				異常なし	
4	38 女	左 乳せんしゅよう	(++)	(±)	R ₂	R ₄	赤沈 ²⁹ / ₆₁	R.381×10 ⁴	W7000	S 79.6%	GB 1046	試切 マストパチー
5	36 女	両側乳せんしゅよう	(-)	(±)	R ₂	R ₇	赤沈 ⁷ / ₂₄	R.349×10 ⁴	W3350	S 78%	GB 1048	試切異常なし
6	31 女	左 乳せんしゅよう	(-)	(-)	R ₃	R ₇	赤沈 ⁹ / ₁₆	R.545×10 ⁴	W6150	S 94%	GB 1056	異常なし
7	25 女	右 乳せんしゅよう	(-)	(-)	R ₂	R ₆	赤沈 ³ / ₇		W5050			試切 線維せんしゅ

神岡町病院 本多博士提供 10例 他6例は試験切除せず異常なし

番号	年令性	診 断	判 定	
8	50 女	右 乳せんしゅよう	試切	異常なし
9	32 女	右 乳せんしゅよう	試切	マストパチー
10	63 男	右 乳せんしゅよう	試切	女性乳房
11	62 男	右 乳せんしゅよう	試切	女性乳房

表 23

検診人員1,264例の年令別、肺結核、けい肺結核比較表(実数) ()内は肺結核けい肺結核実数
 40才以上1,021例中71例7.1%, 40才以上男性414例中30例7.2%, 女性607例中41例6.7%

病名・性別	年 令													計	
	19以下	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上			
肺 結 核	男	8	4	10	23(1)	36(2)	98(7)	91(6)	63(5)	64(2)	45(4)	39(4)	14(2)	495(33) 6.6%	1,264 (85) 6.6%
	女	1	8	25(2)	37(1)	91(8)	132(6)	140(7)	114(9)	103(11)	60(5)	34(2)	24(1)	769(52) 6.7%	
けい肺結核	男						(6)	(4)	(3)					495(13)	1,264 (14)
	女					(1)								769(1)	

表 24

検 診 人 員 1,094 例 の 年 令 別 検 便 虫 卵 比 較 表 (実数)

病名・性別	年 令													計	
	19以下	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70以上			
十二指腸虫					1			1						1	2
かい虫	1	1	3		3	3	1	3	3		1		8	25	
べん虫	1			1	1	3	3	2		1	1		10		19
東洋毛様線虫						1	1		2				1	4	
総検診人員	8	4	7	19	34	94	81	60	56	42	34	12	451		1,094
	1	3	22	25	74	108	123	100	87	53	28	19	643		

下部, 村沢, 高野, 出口, 村上, 高田, 上原, 本多, 富田: 成人病集団検診